

ヴェーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第2号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎
 東京都東村山市久米川町1-16-5
 TEL& FAX 0423(95)9788

このままではリサイクル事業 が行まじまる

バブル崩壊後、漸く好転したかに見えた再生資源市況が、古紙・古繊維から鉄・非鉄類に至るまで、すべての資源価格が再下落し、流通の鈍化と在庫の滞貨をきたしてきた。一九九五年度の紙・板紙生産は史上最高の二九八二万トンに達したが、逆に古紙利用率(五三・三%)・古紙回収率(五一・四%)は前年より夫々〇・二%下回り、本年度前半はさらに悪化している。生産・消費の抑制は微塵もなく、国と製紙業界の公約とも言うべき「リサイクル五五・五六計画(古紙利用率を一九九四年までに五五%・二〇〇〇年には五六%にする)」もほぼ画餅に帰している。加えて、多額の行政コストで進め

理事長 紺野武郎

られたたごみ減量リサイクルも、絶対量の増加分を処分したに過ぎず、回収率の向上には程遠いことも示した。経済優先・環境二の次の国策が、バブル崩壊後の教訓を学習することなく、地球への恥のかき捨てを続けているのだ。このようなお国柄を容易に変えることが不可能ならば、せめて世界中からかき集めた資源を一〇〇%回収し、何等かの形で世界に還元する方法を構築しなければならぬ。国内産業は空洞化し、生産拠点がアジア各地に移った今、日本で回収された再生資源の活用を多くの国が望んでいる。世界一の消費地であり、生産拠点的ない首都圏の自治体によって『リサイクル基金制度』

を発足させ、再生資源の国際的な流通の手助けを実施して頂きたい。同時に市民や企業・行政の皆さんには、今後さらに徹底した資源の分別をお願いしたい。再利用率の向上にも輸出の拡大にも品質の一層の吟味が要求されることは確実である。例えばオフィス古紙は回収率も低い、殆どMI X古紙として雑誌古紙に混入されることが多い。この中の上質古紙を分別すれば、三〇万トン以上の純パルプで作られているトイレットペーパーの原料に代えることが可能なのだ。地球資源のリサイクルは一億二千万人のあいだだけでは循環できない時代になっている。二五億人のアジアの国々と、いや五八億人の世界の人々と共に言うリサイクルシステムを、東京から作り始めることを強く提案したい。

直言拝聴

『限りなくごみゼロに』

これからの清掃行政の取り組み

保谷市生活環境部参事

(ごみ対策担当)



奥山好行様

ごみ問題は、日本経済の仕組み(大量生産、大量消費)の中で、今や大変な社会問題になってきているところであるが、私たち清掃行政の担当者は、真っ向から取り組みなければならぬと考える。

かつて、よく言われている「物を造る人、消費する人、ごみを片付ける人」と知らず知らずのうちに、「ごみ」は行政側の責任とされ、そのため年々増加する処理経費が膨大(平成3年度全国では一兆六千億円の経費がかかる)な額となり、地方自治体の財政負担が深刻な状況になっている。

国においては、先に「再生資源の利用の促進に関する法律」通称、リサイクル法を制定し、その基本方針として、市民、事業者、行政が応分の社会的責務を分担しつつ、ごみ問題や環境問題に取り組む必要があるとされ、また、今

回「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律」いわゆる容器包装リサイクル法が制定されたが、その法律でも消費者、市町村、事業者それぞれの役割分担が決められている。

そこで、ごみの減量化、資源化事業の推進にあたっては、市民、事業者、行政が社会的責任を自覚しながら、お互いに協力して行動することが重要である。

今後、保谷市を含む多摩各市は、容器包装リサイクル法に基づいて、ビン、かん、紙プラスチック容器など十品目(法律上の対象品目)を全量回収することになるが、そのためには、逆有償の解消と安定した受け皿の確保が緊急課題となる。

また、リサイクルの促進には、回収した製品が再び同じ製品(資源物を循環させる)に生まれ変わることが基本原

則であり、そのためには生産段階での、リサイクルしやすい製品の開発と素材の統一化の研究など、早期にメーカー側は進める必要がある。

いずれにしても、国の方針が廃棄物循環型のごみゼロ社会を目指し、廃棄物処理への転換を提唱している以上、国民全体が意識改革をしながらそれぞれの立場で責任と役割を果たすことが大切である。

多摩のごみ問題とリサイクル

保谷市を含む多摩二六市一町の最大の課題は、日の出町にある最終処分場の問題である。現在、埋め立てている谷戸沢処分場も平成八年度末で満杯となり、第二処分場の建設も大変難航しているながらも、平成九年度の開場に向けて急ピッチに工事が進められている。しかしながら、その第二処分場もごみを徹底して減らさないかぎり、埋め立て期間は一

五、一六年とされておられ、その後のメドは全くたっていない。

このような状況から、多摩全体のごみの減量と資源化率は、全国レベルで考えても、かなり進んでいると言われているが、それは人口の増加に伴い都市化していく中で、中間処理施設の増設や最終処分場の確保ができない事情からである。

多摩のごみ問題は、いかに埋め立てごみを減らすことができるか、そのためには、細目分別（ごみを品目別に分ける）を徹底し、リサイクル事業の更なる拡大を図る必要がある。いずれにしても生産、流通、消費の各段階における発生抑制と受け皿の確保、リサイクルしやすい製品の開発など課題は多いが「本気」で取り組む必要がある。

中間処理施設と残渣の再資源化

昨年、多摩六都府リサイクルフェア主催による「十年後の未来からリサイクルを考える」というテーマでシンポジウムが開かれ、私は、行政側の代表として発言の機会を得た。その中で、ごみ問題の解決に向けて、これまでの「燃やし、破碎して、埋め立てる」だけの処理方法を見直し、環境保全を重視した、ごみ処理の転換を訴えたのである。

それは、中間処理施設から排出される焼却残渣、不燃ごみ残渣の再資源化である。

現在、立川市では、プラスチック類を油に変える実用化プラントを建設中であり、また、府中市など幾つかの市では固形燃料化や焼却灰を再利用するなど大幅なごみ減量化をしている。

保谷市を含む四市で構成している中間処理施設の柳泉園組合では、焼却灰の再利用として舗装用ブロック、リサイ

クルサンド（砂、建設用骨材）湿地土壌固化資材（ニューハイド）や不燃ごみ残渣を原料に人工石の生産など研究開発に取り組んでいる。このことから、各市とも近い将来、中間処理施設での資源化プラントの導入も本格的に検討されていくことになるが、ここで一番大事なことは再資源化された製品も、その他の物品も、いずれ自然界に還元しなければならぬと言いうことを忘れてはならない、そのためにも、再資源化した製品の「無害化」がどこまで出来るかが今後の課題である。

まとめ

以上述べたとおり、保谷市を含む多摩二六市一町の清掃行政は、リサイクルを基本施策として大きく転換して行くことになるが、その道程は大変厳しいものがある。

例えば、容器包装リサイクル法に基づいて、本格的にリ

サイクルの取り組みを進めて行くことになるが、その際の分別収集の徹底や膨れ上がる市町村の財政問題、さらには、分別収集した資源物の受け皿の問題など解決しなければならぬ課題が多い。

また、中間処理施設で資源化プラント（固形燃料化、プラスチック類の油化等）を導入するとしても広大な敷地の確保や財源の問題、さらには生産された再資源の活用、その供給先など難しい問題が山積しているのである。

このような状況下ではあるが、人間の生活があるかぎり必ず「廃棄物」が生じることであり、住みよい地球環境と豊かな社会を維持するためにも「限り無くごみをゼロに」を目指して多摩全体で真剣に議論しながら前向きに取り組んでいかなければならないと考える。

集団回収の業者助成金要請!

八月以降の古紙価格が、再び値下りし、今後年末にかけてさらに続落が予想されます。集団回収の市民団体に対する助成は各市で実施していますが、業者に対する支援を行っている市は、多摩六区内では保谷市だけとなっています。しかし、所沢市を含む近隣市は、ほぼ実施しており、最も理想的なリサイクルシステムと言われる集団回収の維持・拡大のためにも、全市で至急何等かの助成策を講じて頂きたく要望書を提出致しました。今回は、小平市・東村山市・田無市・東久留米市・清瀬市の各市長宛てに提出させて頂きました。各市ともその必要性は十分に認識されており、前向きに対応して頂きました。集団回収システムが壊れれば、さらに莫大な血税が必要になることを御理解願います。

要 望 書

＜ 集団回収など既存の民間回収に対する強化策を ＞

平素、資源リサイクル事業につきましては格別のご支援を賜わり、誠に有難うございます。弊組合は、地元資源回収業者の全ての業種・業態を結集して組織され、貴市の「ごみ減量・資源リサイクル事業」に協力して参りました。

特に、市民団体各位と共に実施している集団回収は、環境問題の啓蒙と意識向上にも広く貢献し、低コストで高品質の再生資源の安定供給にも役立っております。

しかし、再生資源の価格は最低値に抑えられ、ここでさらに底割れの状況が出てきました。このまま推移致しますと、雑誌・雑紙・ポロ布やがては古紙全般が民間の自助努力では取扱えなくなり、行政コストの負担が際限なく増大することが予測されます。

つきましては、民間回収業界の実情を斟酌して頂き、今後次の点に十分にご高配下さいませようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1. 集団回収など民間の資源回収事業に対して、至急助成策を実施して頂きたい。

◎集団回収の実績と意義を考え、不採算部分に僅かな業者支援をして頂くことにより、貴重な民間回収の維持とレベルアップが十分に可能です。

◎埼玉県を含む周辺市においても、すでに業者支援策が施され業績を挙げております。

◎行政による直接回収の依存度を高め、リサイクルシステムそのものを壊したり、市民負担を倍増させることの無いように十分な検討を要望致します。

平成8年9月10日

東多摩再資源化事業協同組合

東村山市久米川町 1-16-5

TEL 0423-95-9788

理事長 紺野 武郎

多摩地域リサイクル事業団体

連合△△△設立「多摩R(リ)団連」

昨年三月七日に設立した東京都リサイクル事業団体連合会(R団連)は、リサイクル事業に携わる一二団体(一三〇〇社)から構成され、二三区内の事業系資源ごみの受皿業務などを主として動き出した。その下部組織として多摩R団連の設立が急がれていたが、東多摩再資源化事業協同組合をはじめとした地域型組合の九団体とR団連加盟一〇団体によって準備が進められ、この九月一九日八王子労政会館において、第一回幹事会を開き正式に発足した。

当組合からは、紺野理事長が幹事として奥山副理事長が副幹事として参加した。

今後、多摩全域の共通したりサイクル事業の促進、各自治体との関係強化、情報交換ネットワーク化、シンポジウムなどの事業を進め、業種・業態を

越えた効率的なリサイクルシステムの構築をめざすことになった。(詳細は事務局へ)

東京都リサイクル事業団体連合会

港区西新橋二一十一-五

呉ビル三階

所 例)ダイナックス都市環境研究所

〒〇三-三五九三一〇九〇八

資源物標準価格		10月1日現在	
集団回収価格		回収業者売値	
新聞	1円	新聞	7円
雑誌	0円	雑誌	1円
段ボール	1円	段ボール	7円

集団回収の雑誌は行政の助成金が必要。
9月に古紙3品目はメーカーの1円下げとなり、古紙の余剰感があります。

7~9月資源化、昨年より減少

1996年7月~9月 組合の資源取扱量 (単位Kg)

	古紙	古布	カレット	生きビン	鉄・非鉄
小平	1,323,130	122,939	282,520	105,068本	254,220
柳泉園	1,187,850	81,300			
東村山	394,130	53,840			
東久留米	314,200				68,060
東大和			67,560	37,900本	
合計	3,219,310	258,079	350,080	142,968本	322,280

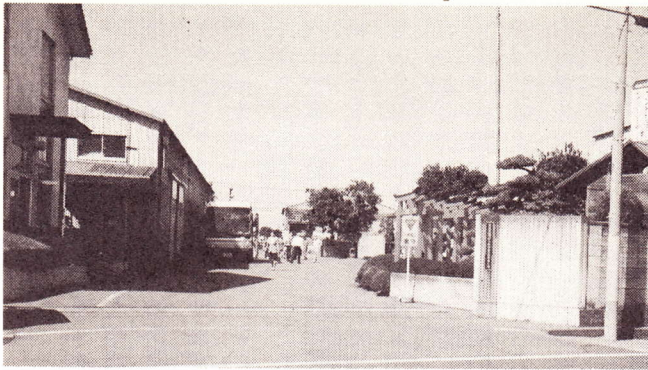
当組合の今年度7月から9月までの3ヶ月間の資源物の取扱量は上記の表の通りです。古紙は3千2百トンではば横這い、カレットと生きビンも前回の集計の時とほぼ横這いです。鉄・非鉄の内スチール缶とアルミ缶は一四%増加、古布類は三二%の減少です。これは夏場で飲料水が売れたのと古布類は非発生期のためです。

研修レポート

アルミ精練工場を見学

去る九月二八日、群馬県、館林市近くにあるアルミ精練工場「正起金属加工(株)」を見学しました。ここで、小平リサイクルセンター、柳泉園のプレスアルミ缶が精練され、再びインゴットになり売却されます。プレスされたアルミ缶の固まりは長さ四十メートル、直径二メートルの高温の回

転ドラムの中を通りバラバラになり、インクやごみなどがもやされます。最後に鉄とアルミが分離され、アルミは溶鉱炉にはいります。そのドラムから十メートル以上離れていても熱気が感じられ立ち止まってられないほどでした。またこの装置はアルミ百%を想定して設計されているので、プレスの中に鉄が多く含まれていると処理できないそうです。工場の敷地内には赤サビ



正起金属加工機工場

の目立つプレス物や、ごみ混入の多いプレス物がまとめられていて返品をまっています。分別がきちっと出来ていないとリサイクルは成り立たないものだとして勉強になりました。

(石川記)

つぶやき

ネコの恩返し?

雨の日、自分の帰りを待っている野良ネコがいました。ネコにはあまり興味がなかった、でもネコって水に濡れるのが嫌いなはずなのに、雨の中アパートの前で自分の帰りを待っていたと思うと、ついで、ホロツときましたね。その後しばらくエサをあげていたんですが、ある日ほかのネコとけんかをしたらしく、大げがをしてウチにやってきたんです、「これは大変」とすぐ獣医さんのところに連れて行きました。治療費は安くしてくれましたんですけど、ネコ缶だつてバカになりません。そんな苦労も知らず本人(本ネコ?)は当然のような顔をしているのが憎たらしい。では、なぜ面倒を見るのかって? マネキ猫ですよ。そのうち宝クジが当たって、マンシ

ョンでも買えるような恩返しをしてくれるんじゃないかと思っています。(流千圓)

祈り

私の今年の願いは

巨人軍の優勝、衆議院の解散総選挙、景気の回復。

一年を振り返るには早いけど、つまでは願ひ通りになったが、残りの景気が少しも良くなりそうもない。我が社(自宅?)の台所もかなり厳しい。

しかし、子供の頃、三十年ぐらい前と比べると、あの頃はトンカツはたまのご馳走だし、ステーキなんて見た事もなかった。それを思えば不景気だと言っても食生活においては今が最高だ。

景気が悪いわけではなく伸びるスピードが遅いだけだ、あせらないで、もっとポジティブに生活してゆこう。

(赦神一刀)

『ペットバトル』

お役を果たしたペット達、夢にまで出てくるポトル達。

パッカー車から雪崩のごとく吐き出された時は唯のごみ、フタ付ポトルは約千個。

雨の日、風の日、猛暑の下で眼前広がるペットの山を覚悟を決めてのフタ取り作業、熊手を振り振り片付けりゃあ、やっと終りが見えたのに無情に現れ山築く又もや、つがいのパッカー車。

汗だく、目まいで夏三ヶ月、フタを取らねば唯のごみ、再び生きてと願う故、必死の作業を繰り返す。いつしか職場の人の言う。

『地獄のペットバトル』だと、不屈の闘志を胸に秘め今日もバトルに挑むのは柳泉園の勇士達。

(小石義信)

私の履歴書

有 藤本チエーン

代表取締役社長 藤本俊光
 大正一三年二月一四日『二月一四日』を記憶に残しておいて下さい。兵庫県の陸海軍演習場がある青野ヶ原で、陸海軍指定旅館に兄四人姉四人の末っ子として生まれ、一六才で満鉄入社、電報やさん、駅員さん、車掌さん、そして昭和二十年春、現役で召集され、終戦、シベリヤ留学は四年間三十三の時上京、翌日より中野駅中心に『くずやおはらい』と呼び声高らかにリヤカー引く人となりました。
 普免取ってひばりが丘からチリ紙交換を車で始め、東久留米からピンクの車で東京は勿論、千葉、神奈川、長野まで回収に行く。『まいどおなじみのチリ紙交換です』の時代を演出、新聞販売店回収が始まり、時代の流れで集団回

収、そして行政回収でしょう。だから地域独占企業としての恩恵を受け、今にして思えば定年もなく、朝八時から六時まで、休日もなく働かせて頂ける結構な御身分で最高に幸せな人生だと、自己満足しているのが現在の私です。
 何時の日か私の一代記を綴り度いと思ってます。乞御期待の程*。

満鉄時代の筆者（左端）



資資源物を出さされる皆様へ

私たちは小平リサイクルセンターで働いています。
 平成4年10月より中島町（小平、東大和、武蔵村山、三市のごみ焼却場）でリサイクルの仕事が始まり、その後平成五年二月中旬より小川東町に移転いたしました。最初の頃はビン、カンの選別プレス作業になれずとまどいましたがいまでは作業にも慣れ、順調に流れております。
 市民の皆様には日ごろ資源物の分別排出にご協力いただきありがとうございます。再度お願いがございます。
 ビン、カン、古布等は必ず分けて出すようにしてください。収集袋の中にはまだまだ生ごみや不燃物などがまじっています。ビン、カンを出す場合ちょっと水で流してもらってください作業は随分はかどります。また雨の日には衣類、布団な

どは絶対に出さないようにお願いいたします。
 資源物を無駄なく、品質の高いリサイクルをこれからも心掛けてまいります。より一層の市民の皆様のご協力をお願いいたします。
 （花島記）

夢見鳥

私はよく夢を見る。以前は怖い夢を同じストーリーで見るとしてこれは夢の中だ、いや現実の事だ、いや絶対に夢だ、ほんとにこんな事があつたら私はこれからの人生終りだ、そんな問答を繰り返しながら目がさめる。
 そんな夢が最近リサイクル現場の事をよく見る。缶やビンの姿が出てきて、僕はこれからどうなるのと私に問い掛けてくる。私は言ってる、缶の君達は今ここでつぶされるけどその先にはすばらしい明るい未来が有るんだよ。ピンはね、また使うビンもある

しカレットになっても色分けされてきれいになって、新しいビンになったり、タイヤの仲間になったり、プロックの仲間になったりするんだよと。すると缶やビン達はそうか僕達はまた新しく生まれてくるのか、そうかほんとなんだねと、私に笑いかけてくる。そんな時にフット目をさます。ほんとに全部が全部リサイクルされるのだろうか。考えてしまう。現実には厳しいのが本音である。この先どうなるのか私にもよくわからない。しかし、これだけは言いたい。市民、業者、行政の中で国政がしっかりとしたビジョンを実行する事がいかに大事かとゆうことです。

(月よりの使者)

お願い
 組合員、皆様方へ
 御寄稿・御投稿
 をお待ち申し上げます
 お気軽にお寄せ下さい
 広報委員会一同

行事・行動

七月

- 五日：東京ルーラル懇談会
- 七日：財務委員会
- 一〇日：東久留米ごみ減量審
- 一一日：理事会
- 一二日：東京弁護士会で講演
- 一九日：清瀬市ごみ減量審
- 二二日：多摩R団連準備委
- 二四日：東京ルーラル懇談会
- 二五日：古紙センター業務委
- 二六日：集団回収委員会
- 二七日：小平市ごみ減量審
：家族リクリエーション
- 二九日：東村山市ごみ減量審
- 三一日：井尾ガラス工場見学
- 八月
- 一日：東京ルーラル懇談会
- 三日：小平市リサイクル祭
- 九日：理事会
- 二二日：多摩R団連準備委
- 二三日：広報委員会
- 二八日：東村山市ごみ減量審
- 三〇日：古紙センター容器新
- 法モデル事業委員会

九月

- 一〇日：要望書提出(小平市
東村山市)
- 一一日：理事会
- 一三日：小平市一廃業者との
懇談会
東久留米ごみ減量審
- 一九日：多摩R団連発会式
- 二〇日：要望書提出(清瀬市
東久留米市田無市)
- 二六日：古紙センター業務委
保谷市ごみ減量審
- 二七日：東久留米ごみ減量審
- 二八日：正起金属加工見学会
小平市ごみ減量審
- 一〇月
- 四日：東村山市ごみ減量審
- 五日：多摩R団連幹事会
- 九日：広報委員会
- 一一日：理事会
- 一三日：田無市リサイクル祭
- 一六日：広報委員会
- 一九日：TAMAとことん討論会
- 二三日：清瀬市ごみ減量審
- 二四日：保谷市ごみ減量審
- 二七日：東村山リサイクル祭

編集後記

ヴィーナス通信も第二号を向かえる事になりました。何ごとも二番目が大事。物事の方角性が決まります。

今号は保谷市生活環境部参事の奥山好行氏の御寄稿を頂きました。お忙しい中、ご執筆を下さり大変ありがとうございました。これからも連続企画物として各方面の方々の貴重なご意見を頂いてまいりたいと思います。ご期待ください。

また、組合員の個人史を掲載していくことにしました。今現在の立場から想像もできない若き日の苦労談や、楽しい話などを書いていただきます。だいたい三回ワンセットぐらいで、次の方にバトンタッチの予定です。こちらの方もどうぞ楽しみにしていただきたいと思います。(吉浦)